

科目名	救急救護医学特論Ⅱ			分野・必選別・ 単位数	専門科目	必修	2単位
担当教員	◎教授 小菅宇之 教授 村田宣夫 准教授 藤崎竜一						
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	内因性の傷病者が呈する症状・徴候・病態を医学的に把握し、その鑑別・判断方法、緊急度・重症度。救急救命処置、病態に見合う的確な搬送と病院選定の質の向上を図るため、医師が実施している診断学手法を病院前救急救護学に導入した総合観察推論を学修し、高いレベルの医学的素養を修得した教育指導者として、MCでの根拠に基づいた説明、現場での教育・指導ができる能力を涵養する。						
授業の到達目標	①例題となる内因性救急疾患について、症候と病態生理の関係を説明できる。 ②例題となる内因性救急疾患について、症候から鑑別・判断方法を説明できる。 ③例題となる内因性救急疾患について、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定を説明できる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	村田 宣夫	教授	適切な症例報告の検索、プレゼンテーションの準備、ディスカッションの準備ができる。			
	2	小菅 宇之	教授	循環器疾患① 循環器疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	3	小菅 宇之	教授	循環器疾患② 循環器疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	4	小菅 宇之	教授	循環器疾患③ 循環器疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	5	小菅 宇之	教授	脳神経疾患① 脳神経疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	6	小菅 宇之	教授	脳神経疾患② 脳神経疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	7	村田 宣夫	教授	消化器疾患① 消化器疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	8	村田 宣夫	教授	消化器疾患② 消化器疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	9	小菅 宇之	教授	呼吸器疾患① 呼吸器疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	10	小菅 宇之	教授	呼吸器疾患② 呼吸器疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。例題となった傷病の病態生理の説明ができる。			
	11	藤崎 竜一	准教授	感染症① 感染症について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	12	藤崎 竜一	准教授	感染症② 感染症について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	13	小菅 宇之	教授	内分泌疾患 内分泌疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	14	小菅 宇之	教授	環境障害① 環境障害が原因となる疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
15	小菅 宇之	教授	環境障害② 環境障害が原因となる疾患について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	毎回の症例報告(自ら検索、もしくは指定)を事前に読み、キーワードの意味を調べ、プレゼンテーション・ディスカッションの準備を行う。					
	【事後学修】	プレゼンテーションとディスカッションの内容をまとめ、どのような場所でも使用できるプレゼンテーション内容とする。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	マイナーエマージェンシー 原著第3版 医歯薬出版 救急用語辞典第2版 ぱーそん書房						
参考書	JATECプロバイダーマニュアル へるす出版、TRAUMA McGraw-Hill Professional、標準多数傷病者対応MCLSテキスト ぱーそん書房 JPTECガイドブック へるす出版、救急救命士標準テキスト 改訂第9版上下巻 へるす出版						
成績評価の方法および基準	各講義毎に、プレゼンテーションとレポートにより理解度を確認し、このレポートの提出を評価の40%とする。さらに成績評価とし、疾患に対する口頭試問を評価の30%、筆記試験を評価の30%として行う。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						